

# 大事協だより

大島地区公立小・中学校  
事務職員協会 研修部  
第48号  
2014年2月27日発行

## <各地区からのお便り>

今回の原稿は①徳之島町②喜界町③与論町④奄美市住用ブロックから届きました。与論町の支援室だより「うちじゃしより」、奄美市住用ブロックの支援室だより「マンガローブ」も届きました。ありがとうございました。

### ① 徳之島町事務職員会 徳之島町立花徳小学校 中尾 玲樹

こんにちは、徳之島町事務職員会です。

平成26年度は「学校事務の効率化・標準化」を研修テーマに、新たに2名の先生を迎え、10名でスタートしました。年6回計画されている研修会では、各共同実施の取組状況の報告や、事例報告、個人の研究発表等を通して、活発な意見交換を行っています。

徳之島町は小学校が8校、中学校が6校あり、北ブロック支援室と南ブロック支援室に分かれ、月2回程度活動しています。主に諸手当認定事務審査、給与・旅費事務審査、広報誌の作成を活動内容としていますが、年末調整や就学援助事務等、時期による事務処理の相互点検も行っており、若手職員の研修の場にもなっています。また、その他の取り組みとしては昨年度からの教材備品の共同購入や各種受給権調査に加え、今年北ブロックでは事務職員未配置校への支援を、南ブロックでは室長配属にともなう起案決済等の変更を進めながら、南北支援室間でも各種業務の参考情報・データを相互交換する事で、支援の強化・サポートに取り組んでいるところです。

私たち徳之島町事務職員会は、懇親会やスポーツ大会を実施するなど、様々な催しを通して日頃から親睦を図っています。これからもメンバー全員一丸となって頑張りたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いたします。



### ② 喜界町小・中学校事務職員会 喜界小学校 事務職員 西木場 真一

平成26年度の喜界町事務職員会は4名から3名へと人数が少なくなり、また、3名中2名が入れ替わり、昨年度と同様に、各学校で適切に事務処理ができるように相互支援が主な取り組みとなりました。赴任して約1年が過ぎ、喜界町の状況も見えてきて、少しずつ学校現場の業務にも慣れてきているところです。

事務職員会の現状は、県費・町費関係事務の効率化を考え、各人の事務処理スキルの向上や、教育支援につなげるために事務職員として教育現場にどのように向き合っていけば良いか、各校の情報交換を行いながら模索しているところです。

今後は町費（就学援助費、補助金関係、予算関係）の事務処理の改善と効率化を念頭に、相互自主検査や支援室業務の計画的な推進など、まずは3名でもできることから少しずつ進めていく必要があります。小さな組織ではありますが、その柔軟性を活かして、これからも上記の課題をクリアしていきたいと思えます。



百之台から早町方面への展望

### ③ 与論町小中学校事務支援室 与論町立与論小学校 小川 大輔

皆さんこんにちは。与論町事務支援室です。与論島は、鹿児島県の最南端に位置し、美しいエメラルドグリーン的大海と白い砂浜があることから「東洋の真珠島」「癒やしの島」などと呼ばれています。

特に、干潮時に出現する百合ヶ浜は、「死ぬまでに行きたい世界の絶景 日本編」においても紹介されているほどです。興味のある方は是非遊びに来られてはいかがでしょうか!?

さて、26年度の本町支援室は、室長が異動し、執務室が変更となりました。新しい室長の下、1名の新採が加わり合計4名で心機一転、業務に励んでいるところです。

業務内容としては、手当認定・旅費請求書の相互点検・支援室だよりの作成・手当受給権調査・合同安全点検・文書の電子化・消耗品の共同購入・福利厚生マニュアルの作成など多岐に渡っています。

今年度は、従前の業務を継承して行うことを基本としながらも、各業務において内容の充実が図られました。

例えば、合同安全点検は、これまで支援室だけで各学校を回っていたものを、町教委事務局とも合同で実施するようになりました。学校の実態を知っていただき、後々のスムーズな修繕につながったことから、より実効性の高い点検になったのではないかと思います。

今後も学校支援につながる様々な取組を、室員一丸となって実施していきたいと考えています。今後とも与論町事務支援室をよろしくお願いします。



百合ヶ浜の写真

#### ④ 奄美市住用地区学校事務職員会

“トイレットペーパーを牛乳パック100%リサイクル製品に変えていこうプロジェクト”

本町は名瀬からルート58を南に行ったところにあります。その、ルート58線に面した住用小学校に支援室を設置し月2回のペースで共同実施を行っています。準備室でスタートしたのですが、2013年10月より支援室として新たなスタートを切りました。どこの支援室も同じではないかと思いますが、本町も教育支援にどう取り組むかあれこれ試行錯誤しましたが最近ではわれわれ事務職員が学校事務の力量を高めることがまず、先にやることだろうということになり、その考えで行動しています。

今回はこれから本町で取り組もうとしているプロジェクトを紹介します。環境教育の一助になればという考えから、学校で使うトイレットペーパーをすべて『100%牛乳パックのリサイクル商品』に変えていこうと準備を進めています。学校で給食時に出る牛乳パック回収を子どもたちがやっているのに、それがどのように利用されるのか分からないまま終わっている現状をそのままにしておけないと考えたからです。

単価の問題が一番大きな問題だと思われまます。それで、町内で共同購入を考えています。こういう問題は利用者が増えると楽になります。一緒にトイレットペーパーを牛乳パック100%に変えていきませんか。大事協会の皆さんの参加を期待しています。

#### ～新規採用者より～

#### 与論町立那間小学校 永田 篤教

新規採用として与論町に赴任して早くも10ヶ月が経ちます。初めの頃は何をしてよいのか分からず、ただ先輩方に言われたとおりに仕事を行っていました。それでもミスをし、何回も書類を書き直す日々でした。10ヶ月経った今でもたくさん迷惑をかけることがあります。先輩方は優しく丁寧に指導してくださるのでとても助かっています。また、施設・設備等の補修や花壇作りなども行い、学校のために何ができるかを考え、実践する毎日です。まだまだ慣れない日々ですが、その中でも子どもたちと遊ぶ時間は心身ともにリフレッシュでき、楽しい時間となっています。このようなことは、学校に勤めたからこそできることなので、学校事務職員になって良かったと心から思います。

これからも分からないことがたくさん出てくると思いますが、日々勉強をし、適正に仕事が行えるように努力ができる人になりたいです。そして、学校事務職員として子どもたちのためにできることを今後も精一杯やっています。



#### ～今年度、定年退職を迎えられる

#### お二人の先生方からメッセージが届きました～

#### 退職に当たって

#### 奄美市立節田小学校 鳥越正人

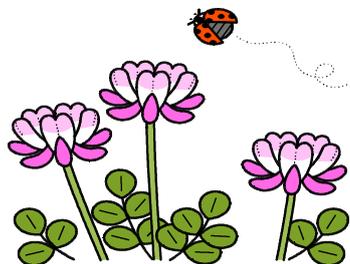
昭和54年4月。鹿児島県にそんな島なんてあることも知らず、伊仙町犬田布中学校に赴任しました。「学校事務」という試験名がなんとなくかっこよさそうに思えて受けてはみたものの、面接で試験官に「事務職員は学校の先生方のお世話をする仕事ですが、あなたはできますか」と問われて「できません」なんて言えないわけで、でも「事務職員って教員にお茶くみなんかするの？そんなのいやだなあ」と思いつつ徳之島へ向かったのです。

なりたくてなった仕事でもなく、いつまでも学生気分が抜けきれないままでしたから、いい加減な事務職員をずっと続けていました。へたすれば免職ものという有様でしたが、そうならなかったのは運がよかった、きっと周りが優しい人たちばかりだったということでしょう。

まともに仕事をするようになったのは結婚し、子どもができた30歳くらいからだと思います。さすがにいい加減な仕事はできないと自覚し始めました。でもこのころはまだ、自分の能力を過信していて、たとえば請求書は山ほどためてから、また旅費は数ヶ月まとめてから一日で一挙に仕上げるということをしていました。自分には能力があるからできることだと自惚れていました。あるときそのことを自慢して後輩に話すと「休みの日も仕事が頭から離れないのではないですか？大変じゃないですか？」と逆に返されてはっとしたのです。実際、残っている仕事のことを四六時中考えていました。休みの日だって、学校のことを忘れて家族と向き合うということをしていない自分に気付きました。このころからやっと「仕事を溜めない」「その日のうちにできることを翌日以降に延ばさない」という当たり前のことをやれるようになりました。遅いですよね。自らの反省にたって若い人には「伝票を溜めてはいけない」「締め切り間際まで仕事を残してはいけない」と助言するようにしています。

さて元に戻って昭和54年4月。全ての新採同様、何もわからないまま隣の小学校へ行き退職前の先輩からとりあえずの事務処理を習い、なんとか事務職員をやっていました。この頃は今よりも新採だらけで、町内8人の内、新採1年目3人、2年目2人、3年目1人、40代1人、60歳1人という構成でした。そして3年目にはとうとう新採4年目1人、3年目3人、2年目2人、1年目2人と新採だけになりました。研修会は毎月開催していましたが、まともな研修もできていなかったのではないかと思います。結局私は8年伊仙町にいましたが、ほとんどが新採という構成は変わりませんでした。次の異動で川内市になり、自分が今までいかに不勉強であったか思い知るようになります。

川内南中・知覧町浮辺小・東桜島中・節田小と各7年在籍し36年の在職期間でした。川内市の事務職員会は20名ほどで研修組織が整っていて30歳代の私にはとてもよい学びの場でした。知覧では8名の事務職員でしたがほとんど40歳代の同年代で好き勝手なことを言い合う研修でしたが、それはそれで楽しいものでした。鹿児島市は事務職員会が二つに分かれていましたがそれでも50名ほどいましたから、毎月の研修会では多種多様なレポートが提供されて多くの刺激を受けました。笠利に来て感心したことが一つあります。「事務の手引き」なるものをかなり以前に作り、少しずつ改訂しながら財産として残してきていたことです。新採者向けに作ったものだと聞いています。全体的に良くできていると思いますが、実務に偏っている気がして少々不満でしたので、基本事項の解説や法規等の挿入など加筆していきましたが道半ばで終わってしまいました。



大事協役員を3年間だけさせてもらいました。いろいろやりたいことはあったのですが入院などあったりして中途半端で退任ということになってしまいました。総務担当でしたが、本当は研修担当になって大事協だよりの編集をしたかったのです。また大事協の理念に「地区内の情報交換・実務研修の充実」とあります。研修部の活動としてこれらに取り組みたかったのですがかないませんでした。

地区研修会での研究発表については、泉前会長と進めてきましたが、加川会長の尽力で昨年度から始めることができたのは大変喜ばしいことだと思っています。できれば、単なる現状報告のみで終わることなく、課題や問題点の検証、将来の取組目標など示すとともに、実務資料の提供など多様な発表をしてもらいたいと思います。こういった発表は大変だからと嫌がる人が多いですが、時にはある程度持続した緊張感の中に身を置くことは大事です。そのような経験が仕事の上でもまた人生の上でも、人を大きく飛躍をさせる機会になるのだと考えています。

ここ4・5年は共同実施、支援室のことばかり考えていました。このことがなければきっとのんびりした退職前生活を楽しんでいたでしょうが、でも最後に多少でも燃えるものがあってよかったとも思います。支援室も今後様々に変容していくことでしょうが、事務職員同士の「相互支援」ということが根底にある組織であり続けてほしいと思います。事務職員制度が存在している限りは。

だらだらと拙い文章を続けてしまいました。ごめんなさい。嫌で嫌で、しょうがなかった事務職員という仕事でしたが、退職届に「鹿児島県教育委員会殿 私は平成27年3月31日付けで定年により退職します。」と書きながら、県教委に「採用してくれてありがとう」と心の中でつぶやいた自分にちょっとびっくりしています。口べたで人付き合いのよくない人間でしたが、関わりを持ってくださった皆さんに感謝しています。ありがとうございました。たぶんこれからもよろしく。



### 知名町立知名小学校 平山里志

本校4年目で定年退職、再任用は希望しなかったのが4月から毎日が休日です。今、自宅を新築中で3月下旬に完成予定です。本校の卒業生なので退職後は校区内に居住します。

さて、4月から何か仕事を探さないと退屈な余生になりそうで少々困っています。もうこの年で再就職は無理で、雇ってくれるところはないと思います。もうしばらく今の仕事を続ける選択肢もありましたが、今度は、何か別の仕事に就きたかったので再出発を選択しました。これから海に面した眺めの良い場所に喫茶店を開業して70歳まで働く予定です。

幸運なことに商業地に宅地を所有していたので自宅兼店舗を新築することになりました。すでに飲食店開業に必要な食品衛生責任者の資格を取りました。そして、次は飲食店営業許可申請で、退職後に5月以降に行う予定です。これは、店舗の設備が完備して営業できる状態でないと保健所の立ち入り検査ができないためです。これから、新築祝いの準備、開業準備、開店祝いの準備と多忙になりそうです。多分、貧乏暇なしだと思います。鯨の見える学校から次は鯨の見える喫茶店です。多分、お店が暇な時は海を眺めて過ごすことになりそうです。

それでは、これまで経験した学校事務職員の仕事について今の想いを少し述べることにします。

この仕事に就いたときは右肩上がりの経済成長で、国内の景気が良かったので給料のアップが仕事のモチベーションを高めてくれる時代でした。年末には4月に遡ってのベースアップによる追給が楽しみでした。今は国の財政が厳しいため公務員賃金は削減の対象になっています。実は、2006年度の「給与構造の見直し」で、給料月額が大幅に引き下げとなり、5万円程ダウンしたときはかなりショックでした。その後、主幹となり、給料月額は40万円台まで回復しました。ちなみに事務参事になると9,000円程増えますが、加算額が減るため支給額はほぼ同じになるようです。

採用は昭和54年4月で、同期採用は40人を超えていました。いわゆる団塊の世代で、同期の仕事仲間が大勢いたので、その仲間を支えられて何とかこれまで仕事を頑張ることができました。今は、採用が少ないので若い人たちは大変だと思います。

自分たちの仕事は、学校に一人配置で自分のペースで仕事を進めることができたのでとても良い職業だと感じました。特に初任校は小規模校でしたので時間的に余裕がありました。その時間は仕事に必要な赤本や青本を読むようにしていましたが、専門用語が難しくあまりよく理解できなかったのを覚えています。

学校は様々な方々との出会いの場があります。学校の同僚、教育委員会、保護者、地域の方々、業者の方々など、そのつながりがひとつの財産となります。転職のたびに新たな出会いがあり、その財産が豊かになっていきます。やはり出会いを大事にしていけば人生は豊かで楽しいものになると思います。

また、学校にいとスポーツ少年団や部活動、クラブ活動の指導をする機会も得られます。初任地の伊仙町では、若い事務職員は児童・生徒のスポーツ指導に携わっていました。大会のときは勝敗にこだわり、子ども以上に指導者は熱くなっていました。今、振り返るととても懐かしい思い出です。

そして、次の岡前小学校でもスポーツ少年団の指導をすることができました。ある年の団員は43名もいたのでAチーム、Bチーム、Cチームに分けて週5日練習させることになり、指導者の方は週7日になったためかなり大変でしたが、子どもと同じように楽しく活動していました。時々、仕事のストレスを発散させることができ充実した日々でした。

さらに、田皆中学校では部活動の正顧問を5年間させていただきました。野球部の監督として、技術指導よりも基礎体力向上に重点を置いて練習させました。守備力・打撃力・走力の土台となる大事な練習でした。土、日の午前中の練習はストレッチ体操、補強運動、短距離走にかなり時間をかけました。また、平日の練習は2kmの持久走から始めていました。冬場には3kmの持久走で足腰を鍛えました。今振り返ると、野球を楽しませることも必要で、そのためには練習試合をたくさんさせることでした。やはり、試合を経験させることにより各自の練習課題が明確になり、練習に取り組む姿勢も良くなり、チーム力が向上します。新チームは、なかなか試合で勝つことができなかつたが、最後の島内大会(5月)は3回優勝することができました。

ここで、これまで定年退職までに経験した学校における教育環境整備について述べたいと思います。

- ・初任校：伊仙町立鹿浦小学校（兼務校：阿権小）  
主に環境緑化と校舎の営繕（窓ガラス修理等）  
※旧放送室を事務室に改装
- ・2校目：天城町立岡前小学校（兼務校：与名間分校）  
主に環境緑化と校舎の営繕（窓ガラス修理等）
- ・3校目：知名町立田皆小学校  
生活科の観察池と砂場の設置、飼育小屋通路舗装  
ビニールハウス設置、環境緑化及び営繕  
※備品の廃棄と備品台帳整備  
※PTA環境整備部による生活科の施設設置
- ・4校目：徳之島町立手々小中学校（併設校）  
主に環境緑化と校舎の営繕（窓ガラス修理等）  
※創立記念事業の募金会計担当
- ・5校目：知名町立田皆中学校  
営繕（水洗トイレ等）や補助設備製作  
※備品の廃棄と備品台帳整備  
※校舎新築による業務
- ・現在の学校：知名小学校  
営繕（水洗トイレ等）や補助設備製作  
※三角鉄棒及び天井扇の補修（錆び落とし、ペンキ塗り）  
※備品の廃棄と備品台帳整備  
※運動会の得点板製作（0～9の数字）  
※校舎及び体育館新築に伴う業務

今、学校では教育環境整備がとても重要な業務になっています。これまでの県費事務から市町村費事務が業務の中心となりつつあります。学校教育を予算面から支えることができるのは学校にいる事務職員です。今月は、次年度に向けての教育課程の編成作業中ですが、その教育課程を予算面からどのように支援していくか、それが事務職員に求められています。どこの学校でも教育環境整備は行っているようですが、教育課程の支援まではまだ取り組んでいないと思います。今後の重要な課題だと思います。

次に共同実施についての考えを述べます。

鹿児島県の共同実施において、教育支援である教育環境整備（従来の施設・設備面からさらに発展させた様々な形で）は教員支援と並び今後益々重要になってきますが、現在、県下の支援室における主たる業務は県費事務の適正化や効率化です。特に給与電算報告書は、昨年からデータ収集・配信システムによる給与報告が導入されたことにより、インターネット経由となり教育事務所が点検できなくなりました。その点検業務をどこかがやることになり、今後は県費事務の適正化を維持するために学校現場の支援室に求められる業務です。本県の学校事務は、教育事務所から学校長への認定権の移譲に始まり、鹿児島県総務事務センターの稼働による県費事務の効率化が進み、今後は、その流れが教育事務所の統廃合へつながって行くのではないかと危惧されます。そのような状況下で、当面は、県費事務（教職員対象の業務）から取り組み、無理なくやれることから進めて行く、そして業務改善や効率化により時間的余裕が生じたら共同実施の長期目標である教育支援の業務に取り組んでいくようにする。一度拡大した業務を減らすことはできないと思います。事務職員を取り巻く九州各県の情勢を知ることでも大事です。年々増大する事務量を勘案しながら進めて行くようにした方が着実な歩みになると思います。

さて、昨年4月から県下一斉に共同実施が行われていますが、その中で鹿児島市は大規模校同士の共同実施であり、多忙化が危惧されています。また、室長の専決権が保留となっており、支援室の業務は限定的なものになっています。鹿児島市の共同実施を前進させるには支援室加配が必要になると考えます。

（鹿児島市：昨年4月から21支援室でスタート）

全国的には、従前のおり各県からの申請によって共同実施加配が配置されています。鹿児島県は以前の共同実施研究加配から今の共同実施加配がされています。すでに大島地区においても喜界町（合併後 H24 年度）、奄美市に加配があり、本年度も奄美市は継続配置されています。やはり、共同実施による教育支援を進める上で加配等による事務職員配置の改善を行うことも必要になるかもしれません。今後、学校現場の多忙化は避けられないようです。それは何によってもたらされるのか、様々な要因がありますが、授業時数の増加、小学校の英語授業、年10回の土曜授業、道徳の教科化、そして地域コミュニティスクール等により学校現場の多忙化が進んでいくことが予想されます。



ちなみに、2014年度政府予算で、学校事務職員関係は、事務処理上、特別の配慮を必要とする加配（共同実施加配など標準定数法15条5号）として現在872人と、地域連携のコーディネーターとしての役割を担う学校事務職員の充実等の加配として100人を維持した上で、新たな学校運営の改善（事務機能の強化）として13人の加配措置がなされました。

尚、2015年度教育予算の概算要求で、文科省は、8月29日に学校の事務機能強化・事務職員配置の充実のために3,000人の予算要求を行っています。そして、2015年度政府予算（案）閣議決定により、チーム学校の推進：230人、その中で学校マネジメント機能の強化：100人（主幹教諭・事務職員の拡充）主幹教諭50人、事務職員50人、専門人材の配置充実100人（学校司書、ICT専門職員、地域連携職員等）～学校職員の拡充  
今後の学校現場は、学校にいる教職員全員が主体的に力を発揮していくことにより学校のチーム力が向上して、学校の教育力がさらに向上するものと期待されます。

最後に、これからの鹿児島県の事務職員制度がどのようなものになるのか様々な不安があると思います。先日、かごしま県民交流センターであった佐賀大学教授による講演では「共同実施」（佐賀県のケース）について言及しました。（下記※）その佐賀県では、採用が行政との一本化になりましたが、教育課程や学校行事も理解していない行政職員よりも学校現場で必要とされる事務職員である限り、無用な心配を抱く必要はないと思います。私たちは、運動会・体育大会、学習発表会・文化祭、入学式・卒業式などの各種行事に何らかの役割を果たしています。また、部活動やクラブ活動などの教育活動、環境整備、校外活動などに関与している事務職員も数多くいます。今後、多忙化する学校現場において事務職員に求められる役割は増加すると思います。そのような学校現場で積極的に業務の拡充を図る上で学校事務支援室の存在は大きくなります。

学校事務支援室はこれまでの学校一人配置による独人制の停滞した現状を打開することのできる組織です。これからの学校事務職員には組織化と専門性は重要だと言われています。そして、大島地区においては大事協とのつながり及び支援室相互の連携も大事です。本町では、町事務職員会の組織構成を見直し、次年度から新たに研修担当を2名置き、支援室と連携して若手事務職員の力量アップを図っていくことになりました。



鹿児島県では学校事務職員制度の確立を目標に、「学校事務職員標準職務表」の県通達の取り組みや校務分掌組織図への事務部の設置を進めてきました。本校では、昨年度設置した教育総務部を実質的に機能させるために学校長へ教育総務委員会の設置を要望した結果、本年度から「校務処理改善委員会」が設置されました。従来の予算委員会ではなく、適正な校務処理のための委員会となりましたが、当面は教育課程を予算面からどのように支援するか検討する場として活用できます。3月上旬に次年度の町予算や旅費予算計画に関する検討を行う予定です。

- ※ そこで・・・「共同実施」(佐賀県のケース)
- ・脱「寄り合い実施」(→標準化)の必要性
    - ー市町村・学校ごとの「違い」が温存されると・・・
  - ・ミス軽減につながらない
  - ・業務改善モデル、人材育成モデルができない
  - ・学校事務の「組織化」「体系化」と、とらえてみる
    - ー事務の標準化(→キャリアに応じた分担設定)
    - ー連携を通じた効率化
    - ー体系的な人材育成



お二人の先生方、長い間、お疲れさまでした。熱い思いが伝わってきました。お二人の新しい始まりが、ステキなものになるようお祈りします。これからも、大事協のことも見守っていただけたらと思います。ありがとうございます。

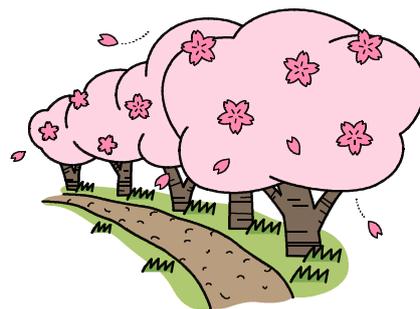


## ～お知らせ～

去る2月13日(金)に理事会が開かれました。主な協議内容は次の通りです。

- (1) 活動経過報告
  - ・1月までの活動経過
  - ・予算執行状況報告
  - ・大事協だよりの反省
- (2) 第3回県事協評議委員会報告
- (3) 今後の活動計画
  - ・2月以降の活動予定
  - ・平成27年度予算概案について
  - ・大事協だよりの計画
- (4) その他
  - ・平成27年度役員体制について
  - ・第4回県事協評議委員会について
  - ・各理事から
  - ・その他

次年度に向けて、よろしくお祈りします。



## ○編集後記○

理事の皆様、先日はお忙しい中、理事会の出席、ありがとうございました。大事協だよりの、理事の皆様を中心とし、おかげさまで無事に発行することができました。第49号は6月発行予定ですが、編集を奄美市住用ブロック、原稿提出を①知名町②天城町③瀬戸内町となっております。よろしくお祈りします。また、新年度になりましたら、組織・研修計画等の提出日もありますので、各市町村、引き継ぎをよろしくお祈りします。

今号は、定年退職を迎える先生方の熱い思い、そして、支援室だよりと、盛りだくさんになりました。最後まで、読んでいただき、ありがとうございます。

今年度もあと少しです。多忙な時期を迎えますが、体調には気を付けて乗り越えていきましょう。

大島地区を離れる先生方、地区内異動の先生方、色々な思いがあると思います。ここで過ごされた日々を糧に、それぞれの新任地での活躍をお祈りします。

個人原稿は、伊津部小学校・藤崎までお祈りします。

メールアドレス：itsubu-e@city.amami.lg.jp

(エルビー)

